かけはし vol.93

宇治武田病院
令和８年11月発行



特集

「早期介入」と「チーム医療」の高度な実践
患者さん・ご家族の幸せを目指すリハビリ

宇治武田病院 地域医療連携室

TEL：0774-25-2062（直通）
FAX：0774-25-2660（直通）

ホームページはこちら▶

月曜日～金曜日／8：30～17：00
土曜日／8：30～12：45
※日曜日・祝日・年末年始はお休みさせていただいております。

理念
・思いやりの心
・地域社会の信頼
・職員相互の信頼

基本方針
・ブリッジ・ザ・ギャップス
・患者さんの権利尊重
・信頼の医療に向けて
・地球にやさしい環境づくり

環境方針
・省資源・省エネルギーの推進
・廃棄物の３Ｒ（減らす、再使用、再資源化）の推進
・安全性・快適性の推進
・環境広報活動の推進

+α rehabilitation

リハビリテーションの本分は元の生活に戻ること
病気治療にプラスアルファの下支えを追求

患者さんは、さまざまな病気やケガなどにより日常生活活動（以下 ADL）能力が落ちるものです。特に課題となるのは入院中の能力低下です。これを可能な限り元の ADL 能力に近づけ、ご自宅で元の生活に戻っていただくことを目指すのがリハビリテーション治療です。今回は、2026 年 6 月に就任したリハビリテーション科の野村嘉彦部長に思いを伺いました。

野村先生のリハビリテーション治療の考え方について教えてください。

病気やケガはそれぞれを専門とする医師が中心となって治療を行います。ところが病気やケガは治っても、ADL能力が下がったり、麻痺が残存していると、元の生活に戻ることが難しくなります。これでは患者さんが幸せな状態とは言えません。例え麻痺が後遺したとしても、何とかご自宅で生活ができるようにするのがリハビリテーション治療の本分です。それが患者さんの喜びにつながりますし、ご家族の皆さんの希望ともなります。

また、ご自宅でなく、さまざまな事情によって退院後、介護施設や高齢者住宅などに入られるケースも少なくありません。こうした場合も、できるだけ良いコンディションで生活していただけるようなリハビリテーション治療を提供することが大切で、いつもそれを目指し努力しています。



宇治武田病院のリハビリテーション治療の特徴を教えてください。

これはリハビリテーション治療に限りませんが、「早期介入」の実践と、「病院全体で治療を行っていること」だと思います。

今、病気やケガの発症後、なるべく早くリハビリテーション治療を開始する「早期リハビリテーション」が重要視されています。当院でも、患者さんが入院された１日目からリハビリテーション治療を提供することを心がけています。入院のタイミングや患者さんの状態によっては、その日のうちに出来ないこともありますが、できるだけ早く始める方がADL能力を落とさないので、非常に重要です。そのために土曜日もリハビリテーション治療を提供しています。

また、早期介入については、リハビリテーション部門だけではありません。病棟薬剤師や管理栄養士、栄養サポートチーム、認知症せん妄対策チーム、退院支援部門など、さまざまな角度から対象となる患者さんをスクリーニングし、早期介入を行っています。



実際、電子カルテを見ればその活動は一目瞭然で、さまざまな職種の方が評価を記載しています。どこの病院でも「チーム医療」を掲げて努力するのは当たり前のことなのですが、今までに体験したことのない高いレベルでこれが機能していることに、赴任当初は本当に驚きました。そのうえ、各職種が記載する評価内容がすごく充実していることにも感心させられます。読めば、どのようなアプローチをしてくれているのかよく分かりますし、こちらの治療にも反映できますので、本当にここでは「生きたチーム医療」が実践されているのを強く感じます。

退院支援のあり方について、お考えをお聞かせください。

私は以前の赴任先で回復期リハビリテーション病棟を担当しており、特に退院支援を重視してきました。高齢の患者さんは、必ずしもご自分お一人だけでご自宅に帰れるわけではありませんので、「どれだけご家族に介護力があるのか」「ご本人の希望はどうなのか」などのアセスメントが重要です。そこでは、介護保険の利用をどうするのか、住宅改修などご自宅の環境をどう整えるのかなど、総合的なアプローチが欠かせません。当院においては、この退院支援の介入も驚くほど早く、私からすれば、「そんなに早く退院後の意向を確認してもご本人もご家族も分かるのだろうか」と感じるぐらいです（笑）。

とは言え、アプローチが“後手後手”に回るのは良くありませんので、常に早めの対応を行うのが推奨されるところです。

「病診連携」についてのお考えをお聞かせください。

病院では、専門的な外来治療や入院治療をしっかりさせていただき、かかりつけの先生に患者さんをお返しする。そして、一緒になって地域医療を高めていくのが基本的な考え方です。

私に関しては、リハビリテーション治療の専門医の目線で全ての疾患に関して取り組んでいます。当院に入院していただき、さまざまな診療科で治療を行っている患者さんに対し、適切なリハビリテーション治療を一生懸命させていただく、いわば治療の下支えをさせていただく黒子のような存在だと思っています。病気そのものの治療にプラスαをご提供することで、患者さんとかかりつけの先生に貢献したいと考えています。

最後に心掛けていることがあれば、教えてください。

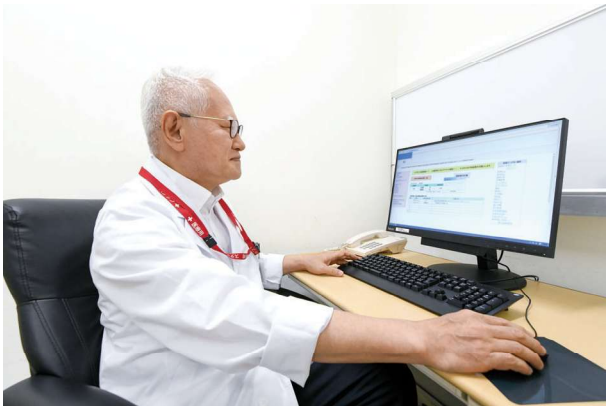
心掛けているのは、「患者さんのお話をゆっくり

聞いて、ゆっくりお話しをする」ことです。これはご家族の方についても同様です。

誰しも忙しくなると疎(おろそ)かになりがちですが、そこは自分を戒(いまし)め、「時計を気にせずゆっくり時間をかける」ことを、特に当院に着任してからは心がけています。

そしてもう一つ大切なこととして、お話が終わった際に「ありがとうございます」と必ず伝えるようにしています。

そうすることで「ちゃんと挨拶する医者なんだ」と患者さんやご家族からの信頼が得られやすくなります。治療は、信頼されることから始まりますし、何と言ってもその場の空気が和むと感じています。



宇治武田病院　リハビリテーション科　部長　野村 嘉彦

略歴

1987年　3月　京都府立医科大学　医学部　卒業
1987年　5月　京都府立医科大学付属病院　整形外科研修医
2003年　4月　京都府立与謝の海病院　整形外科医長
　　京都府立医科大学大学院医学研究科　運動器機能再生外科学　併任助手
2005年　2月　京都府立医科大学大学院医学研究科　運動器機能再生外科学　併任学内講師
2013年　4月　京都府立医科大学大学院医学研究科　リウマチ・関節機能制御学講座　講師
2014年 10月　京都府立医科大学大学院医学研究科　リハビリテーション医学　講師
2015年　1月　京都府立医科大学　臨床教授
2026年　6月　宇治武田病院　リハビリテーション科部長　現在に至る

学位

1998年　2月　医学博士（京都府立医科大学）

所属学会・専門医

一般社団法人 日本専門医機構認定　リハビリテーション科専門医
一般社団法人 日本専門医機構認定　整形外科専門医
一般社団法人 日本リウマチ学会認定　リウマチ専門医